

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施 自治体名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度にお ける取組の評価・分析を踏まえた取組 これまでの取組状況	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数	単 位	本 年 度 の 目 標 値	実 績 値	本年度の アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
13208調布 市	③学校と家庭 の課題	05 その他	全国学力・学習状況調査結果において、本市は全国及び東京都の平均を上回っていたが、本市で実施した「魅力ある学校づくりアンケート調査」では、調査対象である小学校4・5・6年生の「授業が分らない」、「どちらかといえば分らない」と回答した割合が令和4年度は8.0%、令和5年度は9.0%、令和6年度は10.2%であった。個別に支援を必要とする子どもが増加しているとの学校からの声があがっている中で、外部人材を活用した学習支援が必要となっている。	授業のつまづきを減らし、家庭学習の定着のため、放課後や長期休業期間中に地域人材を活用した地域未来塾の設置を促進していく。	特に小学校での授業のつまづきを減らし、中学校へつなげていきたいことから、小学校における学習支援員を確保するとともに、地域未来塾の設置を促してきた結果、学習支援員については、12月末現在で比較すると、令和5年度は237人、令和6年度は275人であった。また、地域未来塾については、令和5年度は5校、令和6年度は6校であった。	学習習慣や基礎学力が定着した子どもが増える。	「魅力ある学校づくりアンケート調査」における小学校4・5・6年生の「授業が分らない」、「どちらかといえば分らない」と回答した割合	10	%	9	8.7	03 本年 度の目 標値を達 成し、課 題の決 着が見ら れた 小学校における学習支援員を確保するとともに、地域未来塾の設置を促してきた。授業補助を担う学習支援員については、12月末現在で比較すると、令和6年度は275人、13、253時間、令和7年度は258人、13、285時間と、支援員数は減ったが、支援時間については32時間増加した。また、地域未来塾については、令和6年度は7校、1872時間、令和7年度は8校、2099時間と、1校増え、支援時間は227時間増えた。その結果、目標値をやや上回ることができた。地域未来塾の開設を希望している学校は、ほかにあったが、予算を配分することができなかったため、次年度は希望している学校には予算を配分し、地域未来塾の開設校数を増やすと同時に、引き続き学習支援員の確保に努め、学習習慣や基礎学力が定着した子供の数が増えるようにしたい。	https://www.city.chofu.lg.jp/100030/p056012.html 上記URLに掲載しています。